

肥後 そうなんです。段ボールに入れたら1.5倍くらいになるので、さらにスペースも取って。

おか えっ、これって人にあげたりとかそういうものではないんでしょ？置いときたいんでしょ？

肥後 一応そうですね、置いときたいですけど、使う機会があまりないので…

おか ここにいてる人で欲しい人いてたらあげます？

肥後 欲しいですか？これ。

おか いやわかりませんよ。今日来てお客さんなんかで、ちょうど欲しい人がいるかもしれないですよ。

肥後 ありますし、家の蛍光灯とか。貰っても困りますよね。

おか またなんかで使うかもしれないですね。

肥後 そうですね、もしかしたら。

おか だってきれいやもんこれまだ。

肥後 そうですね、一回くらいしか使ってないです。

おか しかしアトリエにあるものって言って、これ持って来ますか？せやけどびっくりしましたわ。これ見てこんなでっかいの持って来たんやと思って。ありがとうございます。さあ最後、森井さんは何を持ってきてくれたんでしょ。しかしすごいな、消しゴムにソフトクリームのカップに写真に…

森井 前の肥後さんが強烈でちょっとすべるなーとすごい嫌なんですけど。

おか 時計？

森井 時計です。私が描いてるアトリエがチャイムが聞こえづらっていうこともあるんですけど、やっぱり時間って有限じゃないですか？いい作品を作るためには要するに作品自体、絵を描ける時間もありますし、それにコンセプトを練るためにも、本とか書籍を読んで私がこう一番最初に決めたコンセプトを絶対どっかの誰かが綺麗な文章でまとめてくれるとか。いっぱいそういうのがある中で自分は何をやるかっていうことを模索しないといけない。でも作品も描かなきゃいけない。そうするとやっぱり時間の使い方っていうのがすごく大事ななって。最近なんでも何日って、何なにまで何日って考えるようにしてて、大学院も入ったばっかなんですけど、言うたらあと二十ヶ月で卒業しちゃうなって思って。普通に時間を見るときスマートフォンで見れると思うんですけど、絵を描いてるときに、次この色を作ろうとなってるってとき時間は何分やったっけ？ってぼちってボタンを押すと、その色のイメージが消え去ってしまうので、パッ

と見られるアナログ時計が最強だなと思ってます。

おか 制作してる中で時間との戦いでこういうものが絶対必須のものだということですね。綺麗な色ですねブルーの。

森井 割れてるんですよ。

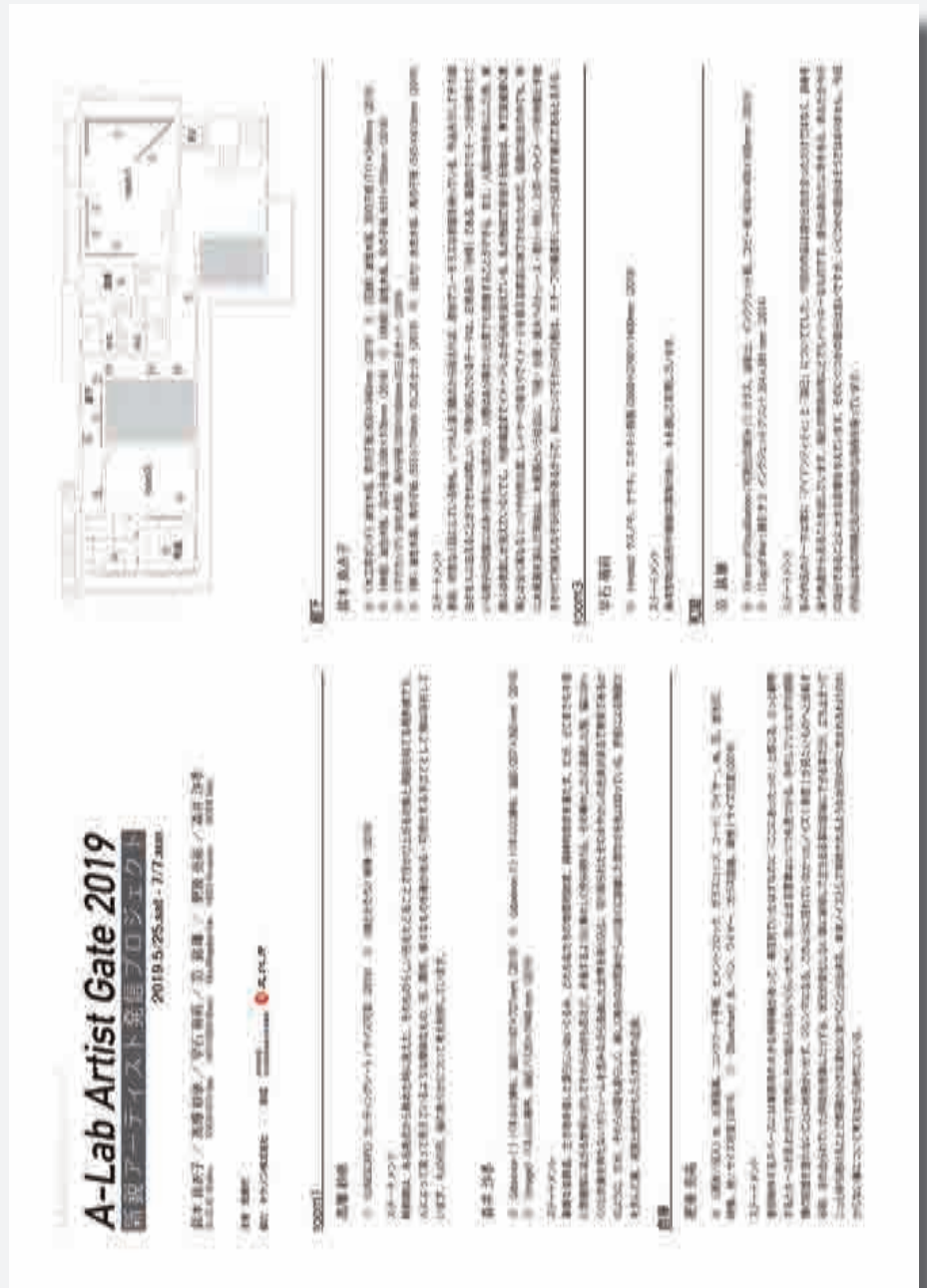
おか 割れてる？ほんまや、下割れてるわ。一番下のところが割れてて、ガラスが割れちゃってないんだ。それでも使ってるの？

森井 動くんで。

おか すごいなー動く限り使っちゃうってことやね。

森井 使いますね。

おか すごいですね、皆さんそれぞれ。さっき松長さんとも話してて、今回解体がテーマというか全体的にそういうようなイメージの作品があったりしますよね。展覧会ずっとこちらのあまらぶさんをやっている方なんですけども。そういうのも共通して見てて皆さん展覧会も見て面白かったです。それと実はアーティストという存在っていうのは実際にはどういう生き物なのかということが今日はみなさんに分かっていただけたかと思います。今回は五人のアーティストの方々にですね、作品の説明であったり、学生時代の思い出、コンセプト、アトリエにあるものをこういうかたちで見せていただきました。またアーティストの方に質問とかございましたら直接アーティストの方にお聞き願いたいと思います。今日は二時間という長丁場でございましたけれど、最後までみなさんお付き合ひありがとうございました。もう一度アーティストの皆さんに大きな拍手をお送りください。





あまらぶアートルボ A-Lab archive vol.20
A-Lab Exhibition vol.18「A-Lab Artist Gate 2019」
2019（令和元）年 9 月 初版第 1 刷発行

発行 編集 制作 尼崎市 文化振興担当